

科目名	地域社会と環境
単位数	2単位
担当者	清水 知佳
授業種別	講義科目

サブタイトル	公害から現代まで
授業内容	環境法は1993年に制定された環境基本法を頂点として生成されましたが、現在においても、地球温暖化や原子力災害という事象を受け刻々と法整備が図られています。本講義では、環境法の複雑な体系を捉え、そこに存在する環境法固有の理念・目標、方法の理解を目指します。
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション/リアクションペーパー
到達目標	本講義では、環境法がどのような特徴をもっており、どのような基本原則に基づいてどのような仕組みをもっているのか、について個別法令に共通する考え方を学びます。環境法が公害法から拡大し、いかに発展を遂げてきたのかについて丁寧に追いつながら、今日における各種環境問題への法的解決について学んでいきましょう。
到達目標となる駿大社会人基礎力	①言語処理力/③情報収集力/④論理的・多面的思考力/⑤情報処理力/⑬課題発見力/⑮問題解決力
卒業認定・学位授与方針との関連	この科目はディプロマ・ポリシー(全学部)の「(5)総合的な力」と関連しており、受講生は環境問題を総合的にとらえる視点を身につけることができる。
関連科目	憲法概論・行政法概論・行政法総論Ⅰ・行政法総論Ⅱ・行政手続と行政争訟Ⅰ・同Ⅱ・地方自治法など

## テキスト・参考書等

書名	著者	出版社	ISBN	備考
—	—	—	—	テキストは指定しません。適宜レジュメを配布します
環境判例百選(第3版)	大塚直	有斐閣	978-4641115408	関連判例を学びましょう

授業外における学習方法及び必要な時間	講義の進行によって、該当するテキストや参考書の関連ページを読む(2.0時間)。さらに、それらについての判例を判例百選などで読む(2.0時間)。
--------------------	---

## 成績評価方法

評価方法	評価割合	成績評価基準等
期末試験	70%	環境法固有の理念、目標、方法等を問い、論理的な思考力を評価します。
レポート、授業態度	30%	レポートや授業内の態度(発言、勉強意欲等)を評価します
課題に対するフィードバックの方法	講義において受講生に質問するなど対話型の講義を目指し、学生の理解度を確認しつつ講義を進めます。レポート等については、できるだけ授業内にて解説します。また、優秀答案については、適宜紹介したいと思います。	

## 実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の実務経験	実践的な教育の取組
-	-

## 授業計画

第1回	環境法とは
第2回	身近な環境問題を考えてみよう
第3回	四大公害
第4回	足尾鉍毒事件
第5回	日立煙害事件
第6回	水質二法
第7回	公害対策基本法

第8回	公害国会
第9回	ストックホルムとリオ
第10回	現代の環境問題①廃棄物
第11回	現代の環境問題②景観
第12回	現代の環境問題③大気汚染
第13回	現代の環境問題④環境影響評価
第14回	埼玉県の環境問題
第15回	まとめ
第三者チェック①	
第三者チェック②	修正なし 上河内 2024/2/10
第三者チェック③	